

歳時記のある暮らし

二〇二六年

《九月》

草木のようすや時折吹く涼風に季節の移ろいを感じるころです。

皆様、健やかにお過ごしでしょうか。

いつも『神秘の健康力』をご愛用いただき、誠にありがとうございます。

九月はまだまだ厳しい暑さが続きますが、日の暮れが早くなっている、朝夕の風に涼しさが混じり始めます。

二日からは、禾乃登（こものすなわちみのる）。稲穂がふくらみ、田んぼは少しずつ黄金色へと変わり始め、穀物が実りのときを迎えます。

七日からは、草露白（くさのつゆしろし）。朝夕の草花に白い露が宿り、空気にひんやりとした気配が混じり始めるという意味ですが、実際には酷暑の真っただ中です。

九日の「重陽の節句」は、菊を飾り健康長寿を願う行事です。その祈りを受け継ぐように、二十一日には「敬老の日」を迎えます。人は歳月を重ねるほどに豊かな心を育み、他者へ寄り添う深みを増していくもの。暦に刻まれた行事は、私たちに感謝と祈りの歯車をあらためて教えてくれます。

十三日からは、鵲鴒鳴（せきれいなく）。小川や水辺に、尾を上下に振る鵲鴒の澄んだ声が響きます。そして十八日からは、玄鳥去（つばめさる）。春から夏とともに過ぎた燕が南へと旅立っていきます。

二十日から秋彼岸に入り、二十三日からは「雷乃収声（かみなりすなわちこえをおさむ）」の時期に入ります。夏のあいた空をどろかせていた雷も次第に鳴りをひそめ、自然は少しずつ静けさを取り戻していきます。この頃は、春分の末にあたる「雷乃発声（かみなりすなわちこえをはつす）」と対になっています。

春に雷が鳴り始め、秋におさまるという流れは、稲が芽を出し、伸び、実りを迎える時期と重なっています。昔の人は、雷、つまり稲妻が稲の成長を助けると考えていました。このことから、雷は「稲の実りを助ける大切な伴侶（妻）」という意味から「稲妻」

（裏へ続きます）

『神秘の健康力』

定期購入 30粒 2,700円（税込）～

商品の注文・変更をご希望の場合は、下記にお電話ください。

☎0120-63-2222

※おかけ間違いにご注意ください。

【営業時間】

9:00～18:00（12/31～1/2は休日）



と呼ばれるようになりました。植物の成長に欠かせない栄養の中に窒素があり
ますが、雷放電により空気中の窒素は酸素と結びつき、窒素酸化物となって
雨に溶けて降り注ぐと、稲の肥料となり、成長を促します。量はわずかなものでし
うが、自然がそっと手を添えるように、稲や草木の成長を支えてきたのでしょう。

稲を実らせる存在として雷をとらえていた当時の人々の思いが暦の中に息づいて
いるですね。ちなみに、「雷」は夏の季語ですが、「稲妻」と呼ぶと秋の季語になります。

二十五日は十五夜。まあいい月を仰ぐと、胸の奥が穏やかになるように感じます。

月の澄んだ光は、心の曇りまでもすっと拭い去るようで、月夜には格別の趣があります。
月かげのいたらぬさとは、なければも、ながむる人の、ここにぞすむ。

仏教において月は「仏様の慈悲心」や「悟り」の象徴であり、闇夜を等しく照らす

光は、すべての人を包み込む温かい救いを表します。法然上人のこの歌は、仏の慈悲心は
常にどこにでも降り注いでいるけれど、私たちが空を仰ぎ、その存在に心を向けたときに
初めて、その温かさに触れることができるのだと教えてくれています。日々の忙しさや
不安で心が波立つときこそ、夜空に浮かぶ月を見て仏様の慈悲に気づきたいものです。

二十八日からは、蟄虫戸（むしかくれてとをふさぐ）。虫たちは土に戻り、入口をふさぎ、冬への準備
を始めます。虫たちは春に備えて休むことで、休んで心身を整える時間の大切さを教えてく
れているようです。九月は夏の疲れが現れやすく、何か新しいことを始めるといふより
も、これまでするべきこと、次の季節を元気にスタートさせるために備える時期かもしれ
ません。

健康対策には『神秘の健康力』。商品のご注文やご変更などございましたら、
いつでも（0120-63-2222）までご連絡ください。

皆様のご健康をお祈り申しあげます。

金氏高麗鹿人參株式会社

おもてなし係お手紙担当 久郷 直子

